

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」を世界遺産に

北海道・北東北には、円筒土器文化や亀ヶ岡文化など縄文を代表する遺跡が数多くあります。植生や地形など豊かな自然環境がそのまま保全され、縄文時代を彷彿とさせる遺跡群は、その歴史的価値が高く評価されています。

そこで、青森県は、北海道、岩手県、秋田県並びに12市町と共同で、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の平成27年度の世界遺産登録を目指し、その準備を進めています。

世界遺産は、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の宝

世界遺産は、世界遺産条約(1972年採択)に基づいて世界遺産一覧表に記載された、顕著で普遍的価値を有する「遺跡」や「建造物群」などのことです。

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は、国の調査・審議を受け、平成21年1月5日、世界遺産暫定一覧表に記載されました。

この暫定一覧表に記載された資産の中から、国が、原則として1年に1件をユネスコ世界遺産センターに推薦します。

その後「国際記念物遺跡会議(イコモス)」の専門家による現地調査を経て、ユネスコ世界遺産委員会での審議・登録決定となります。

北海道・北東北を中心とした「縄文遺跡群」15遺跡

年代	約13,000年前	約9,000年前	約6,000年前	約5,000年前	約4,000年前	約3,000年前	約2,300年前
時代区分	縄文時代						弥生時代
	旧石器時代	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期

- 洞爺湖町 史跡 入江・高砂貝塚 (前期～晩期)
- 伊達市 史跡 北黄金貝塚 (前期～中期)
- 森町 史跡 鷺ノ木遺跡 (後期)
- 函館市 史跡 大船遺跡 (中期)



おおだいやまもといち
外ヶ浜町 大平山元 I 遺跡 (草創期)
旧石器時代の特徴を持つ石器群とともに、土器と石鏃(せきぞく)が伴って出土しています。土器は約16,500年前の日本最古のものと考えられ、旧石器時代から縄文時代への変遷を考える上で重要です。



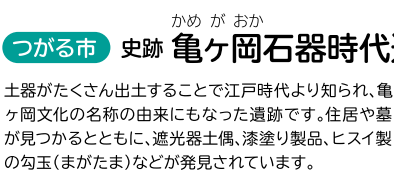
さんないまるやま
青森市 特別史跡 三内丸山遺跡 (前期～中期)
我が国を代表する縄文時代の大規模集落で、長期間にわたり定住生活が営まれ、膨大な量の土器や石器、土偶、ヒスイなどが出土しており、縄文文化を考える上できわめて重要な遺跡です。



こまきの
青森市 史跡 小牧野遺跡 (後期)
大規模な環状列石で、膨大な数の石が三重の環を描くように配置されており、祭祀や葬送の場であったと考えられています。



たごやの
つがる市 史跡 田小屋野貝塚 (前期)
日本海側では数少ない貝塚で魚や動物の骨、貝類、骨角器などが出土しています。ベンケイガイで貝輪を作り、他の地域と交易しており、当時の交流・交易を知る上で重要です。



かめがおか
つがる市 史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡 (晩期)
土器がたくさん出土することで江戸時代より知られ、亀ヶ岡文化の名称の由来にもなった遺跡です。住居や墓が見つかるとともに、遮光器土偶、漆塗り製品、ヒスイ製の勾玉(まがたま)などが発見されています。



いせどうたい
北秋田市 史跡 伊勢堂岱遺跡 (後期)



おおゆ
鹿角市 特別史跡 大湯環状列石 (後期)

ごしょの
一戸町 史跡 御所野遺跡 (中期)



ふたつもり
七戸町 史跡 二ツ森貝塚 (前期～中期)
東北地方有数の大規模な貝塚で、魚や動物の骨、貝類、骨角器が発見されています。また、竪穴住居や食料の貯蔵穴・墓や、埋葬された犬も見つかり、縄文人と犬との関係を知る上で貴重です。



ちゅうちやち
八戸市 史跡 長七谷地貝塚 (早期)
東北北部を代表する貝塚で、魚骨や漁具などが出土しており、漁労を中心とした生業、食生活、自然環境などを知る上で貴重な貝塚です。



これかわ
八戸市 史跡 是川石器時代遺跡 (晩期)
堀田遺跡、一王寺遺跡、中居遺跡の総称で、中でも中居遺跡は亀ヶ岡文化を代表する遺跡のひとつです。多くの漆製品が発見され、優れた漆技術を知ることができます。